

「もの」に敬意を

朝霞市立朝霞第三中学校3年 佐々木 結愛

「バンッ。」

教室でよく聞く音。誰かが机を強く叩く音。その「誰か」は、しっかりと理解しているだろうか。その強く叩いた机は、自分のもので、自分のものではないことを。

私たちが学校で使っている多くのものは、税金で払われているものだ。このことを知っている人は、多いと思う。しかし、このことを理解して意識している人は、決して多いといえないと私は思う。教室を見回してみる。丸められた教科書、ネジが取れかかったイス、叩かれて痛そうにしている机、乱暴に置かれている図書室で借りた本。こういった光景が見られることを、私は当たり前にしたくない。実際、義務教育期間の九年間を合計すると、一人あたり約八百四十五万円もの税金が使われている、というデータもあるそうだ。私はこの事実を知って、こんなにも多くの税金が使われているのかと驚いた。それと同時に、学校で使っているもの、税金で払われているものを決して雑に使ってはいけないとも強く思った。新学期になれば、机やイス、たくさんの新しい教科書が一人一人に与えられる。これらのものは、先程言ったように、自分のもので自分のものではないと私は思う。自分のものだからといって、教科書や机を乱暴に使うのではなく、さまざまな税の過程があって私たちのもとに届いている。ということをしっかり理解するべきだと思うからだ。また、教科書や机など、学校で使われているものの多くが税金で払われていると知っているだけではなく、もっと、学校と税の関わりについて学ぶことが必要だと思う。そうすることで、身近なものとのつながりを知れたり、税金についての知識や関心も高まっていくのではないだろうか。また、税金への意識が高まることで、教科書や机などの学校で使うものをはじめ、「もの」を大切にしようという意識も、共に高まっていくのではないかと考える。学校生活において、必要不可欠な教科書や机。他にも、体育で使われる道具、図書室にある本たちなど、学校を見回せば、税金で払われているものがたくさんある。私たち中学生が、税に対して直接できることは少ないかもしれない。でも、税のつながりが身近にあるからこそできることもあると思う。それは、「もの」を大切にすること。学校で、当たり前に使っているものを当たり前と思わず、丁寧に使うこと。こういったことを意識し、心がけると同時に、税について理解をし、さまざまなことを学んでいくことが大切になっていくのではないだろうか。私は、私たちは、「今」でできることをするべきだと思う。だから、私はこの気持ちを大切にしていきたい。「もの」に敬意を。